



古武術競技会報

第三回 剣術競技大会 開催

古武術競技会組織委員会は3月20日、ウレタンの剣を使用した同会3回目となる剣術競技会「第三回古武術競技大会」(新浅香山校区連合自治会後援)を大阪府堺市のサンスクエア堺で開催した。

古武術競技会組織委員会は3月20日、第三回となる古武術競技会を大阪府堺市のサンスクエア堺で開催。会を増すごとに参加者も増え、今年も昨年を上回る17名の剣士などが参

出場者募集!



詳細は上記QRコードからメールにてお問合せください

者の「違う流派を経験したい」などの思いを、実行に移す場として、安全に配慮して、第一回から開催している。試合は1試合3本制で、2本先取で勝利。1本の制限時間は2分で、時間切れは引き分けとなる。試合に先立ち、参加者全員で集合写真を撮影。和やかな雰囲気が始まった。

大会を主催した古武術競技会組織委員会代表は「みなさんのおかげもあり第三回を迎えることが出来た。小さな大会なのでのびのびと取り組んでほしい。今回は道具も一新した。今後も一つ一つ改善しながら、一歩ずつ進んでいきたい」と



大会長あいさつ

開催あいさつし、ルール説明も行った。閉会式では「参加者全員、日ごろの稽古や各々が鍛錬の成果を発揮したかった。今後も講習会などを定期的に開催し、参加人数を増やしていきたい」と今後の抱負を語った。

3本目は連戦の疲れが見え始めたH.Aさんの攻めを冷静にかわしたJ.Cさんが下段に決め、初優勝を飾った。上滝さんは「シードだったので運も味方した。大人になるとなかなかないことなので素直にうれしい。次も優勝を目指し、日ごろから研鑽に励みたい」と笑顔で語った。

決勝は、前回の優勝者を破り勢いに乗るH.Aさんとくじ引きでシードに入ったJ.Cさん。1本目は勢いそのままにH.Aさんが先取。2本目もH.Aさんが勢いに乗り、上滝さんを二度場外に出すが、一瞬のスキを突いたJ.Cさんが小手を決め1本を返す。

3本目は連戦の疲れが見え始めたH.Aさんの攻めを冷静にかわしたJ.Cさんが下段に決め、初優勝を飾った。上滝さんは「シードだったので運も味方した。大人になるとなかなかないことなので素直にうれしい。次も優勝を目指し、日ごろから研鑽に励みたい」と笑顔で語った。

【試合結果】

少年の部

少年の部は、幼稚園の年中から小学6年生まで幅広い5名の若き剣士が集った。抽選の結果、1回戦第一試合はJ.Kさん(小学3年生)とJ.Sさん(幼稚園年中)の姉妹対決。そのシードに昨年優勝のT.Sさんが入り、同第2試合はF.Kさん(小学4年生)とF.

Yさん(小学1年生)の兄妹対決となった。1回戦第1試合、終始攻めたのは妹のJ.Sさん。その攻めを丁寧にかわし、チャンスを見つけた姉のJ.Kさんが、1本目は右胴に、2本目は左肩に決め、準決勝に進んだ。準決勝は勝ち上がったJ.Kさんと前回優勝のT.Sさん。まずはT.Sさんが下段に決め1本先取。2本目はJ.Kさんの上段攻めをかわし、再び下段

を相手の足に決め、T.Sさんが順当に決勝に駒を進めた。1回戦第2試合(準決勝)は、兄F.Kさんの積極的な攻めを、妹のF.Yさんが一生懸命かわして応戦するが、F.Kさんが1本目は小手に、2本目は下段に決めた。3本目は、F.Yさんが右からの払いを相手の左腕に決め、1本を返した。2本取ったF.Kさんが決勝に進んだ。決勝戦に先立ち行わ

れた3位決定戦は、準決勝で惜敗したJ.KさんとF.Yさんが出場した。まずは藤岡さんが下段に一刀を決め、1本先取。2本目はJ.Kさんが積極的に攻める中、藤岡さんが一瞬のスキを突いて胴に決めた。3本目はJ.Kさんが相手を場外に1度押し出すほど攻め続け、そのままの勢いで1本を返した。よって藤岡さんが3位となった。

成年女子の部

1回戦第1試合は、H.Aさんと過去2回の大会で優勝しているF.Rさん。両者数合の打ち合いの後、H.Aさんの打突が有効で1本。2本目はF.Rさんの払いが相手胴に決まると、3本目は再び打ち合いの末、H.Aさ



成年男子の部

1 回戦第1試合は2連覇のK・KさんとO・Rさん。初戦はO・Rさんが突きを決め1本先取。2本目はK・Kさんが一瞬のスキをうけて1本を返す。3本目は数合打ち合いの



一勝一敗、白熱する決勝戦

末、O・Rさんの一打が有効となりO・Rさんが2回戦へ駒を進めた。1 回戦第2試合はK・YさんとY・Sさんの二刀流同士の戦い。数合打ち合いK・Yさんが胴を決め1本先取。2本目もK・Yさんが胴を決めて準決勝へ。3本目はY・Sさんが胴に1本返した。1 回戦第3試合は、1刀のK・Hさんと2刀のY・Mさん。まずはK・Hさんが上段から相手肩口へ決め1本先取。2本目はY・Mさんが面を決め返すと、3本目はY・Mさんの右刀が胴部へ決まり準決勝へ進出した。1 回戦第4試合は、O・RさんとU・M幹人さん。まずはO・Rさんが胴を決め、2本目はU・Mさんの右段からの振り下ろしが相手腿部に決まり1本返す。3本目をU・Mさんが決めて準決勝へ。2 回戦は1試合のみ。シードのK・H聡一郎さんと前回優勝者を破り勢いに乗るO・Rさん。一本目はO・Rさんが、K・Hさんの上段からの攻撃をかわして面を決め1本先取。2本目はK・Hさんが取り接戦に。3本目は、K・Hさんが倒れたチャンスにO・Rさんが1打を決めた。準決勝第1試合はY・MさんとU・Mさん。1本目はU・Mさんが先取したが、2本目3本目はY・Mさんがいづれも面を決め、決勝に駒を進めた。準決勝第2試合は、1刀のO・Rさんと2刀のK・Yさん。まずはO・Rさんが胴を決め先取すると、2本目はK・Yさんが胴を決めた。3本目はO・Rさんの上段からの攻撃が有効となり、O・Rさんが決勝進出。決勝に先立ち3位決定戦が行われ、惜しくも準決勝で敗れたK・YさんとU・Mさんが対戦。K・Yさんが細かいステップで相手をほんろうしながら二刀を繰り出し、3本すべて獲得し3位を決めた。決勝戦は、1刀のO・Rさんと2刀のY・Mさん。1本目はY・Mさんが面を決めて先取すると、再び激しい打ち合いがあり、一瞬のスキをついて面を決めたY・Mさん初出場。初優勝を決めた。3本目はO・Rさんが上段からの攻撃を相手肩に決め1本返した。初優勝のY・Mさんは「初出場だが、体験会で稽古させていただいた。試合は緊張したが、日ごろは剣道に励んでおり、稽古の成果が出せたのだと思う。今後毎日精進していきたい」と語った。



試合終了後は表彰式があり、上瀧会長から表彰状とメダルが各部門3位まで、計9名に手渡された。

古武術競技用具の開発進む

古武術競技会組織委員会では古流武術の研究と発展と普及を目指して運営組織の充実、



共通試合ルールの策定に励むと共に、試合を実施する上で安全かつ古流剣術の特性を生かす事が出来る専用の試合及び練習用具を開発している。第3回となる今大会では第1試合から1年余りを経て「古武術競技試合 剣術用具1型」(仮称)の開発に目途が立ち、正式採用に至った。用具開発は競技会発案以前から検討が始まり、22年3月に開催した第1回大会実施後、試合で得られた経験を基に、市販防具のアレンジ品を第2回大会から試験導入し、防具の開発を積み重ねてきた。また、防具開発と並行して検討していた剣術用具も同様に、月1回開催の練習体験会を実施して出場経験者や体験参加者に使用してもらいながら、強度や使用感を確認・フィードバックを実施している。今大会で正式に採用した防具及び剣術用具は、少年及び一般練習を主たる目的に開発している。剣術道具は、外観上の特徴は反りがあり、柄部分が楕円形上になっている。全長は1010~1030mm、柄の長さは250mm、重量は600g程。柄はアルミ製で150mm程の中子(刀に於い

て刀身を柄と接合・固定する部分)構造を有しており、この中子構造がこれまで他の諸団体が作成されてきた同様のウレタン内包型の用具とは構造が異なる。これにより損傷部品の交換・修理が容易となり、将来により良い材料が出てきた際にその材料の採用を容易としている。また、一般の木刀に使用される鍔を採用する事で手元の安全性を高めるとともにコスト低減と材料調達を容易なものとしている。同様に刀身内部の構造体

具着用を前提とした一般試合用を想定しており、形状はより剣に近く重量も800g~1000gを想定し、安全性、形状、抜刀等での利用迄を想定した開発を進めている。上記の剣術用具に続き、防具、槍・棒術用具の検討を開始している。これらの用具開発によって幅広い武術試合の実現が可能となる。さらに、古武術本来の形である用具混成による小隊での試合を表現できるよう進めている。